Nichiren-shu shizuoka-ken chuubu danshinto kyougikai

檀信協だより

発行　静岡県中部檀信徒協議会

Vol.20
平成22年9月1日発行

編集　静岡県中部宗務所教化センター
http://www.myouhou.com/

平成二十二年度 静岡県中部檀信徒協議会総会

於　静岡市清水区本山海長寺

平成二十二年六月十一日、静岡市本山海長寺（菅野日彰貫首）を会場に、管内各寺院の護持会長百十名参加のもと、平成二十二年度総会が開催された。

はじめに会場寺院である海長寺護持会長より歓迎の挨拶を受け、宗務所長・海長寺貫首菅野猊下（以下菅野猊下）による挨拶の後、今夏の参議院選挙に立候補した、日蓮宗が推薦する佐藤ゆかり氏より支援のお願いの挨拶を受けた。

その後、遠藤会長を議長に平成二十一年度事業・決算報告、「一食一円・アシスト募金」収支決算報告、全国檀信協総会報告、平成二十二年度事業計画・予算案等の協議がされた。

また、社会教化事業協会より、身延山大学の「ラオス仏像復興プロジェクト」に対し、「一食一円・アシスト募金」から援助資金を行ったため、同大学の池上・柳本両教授より現況報告が行われた。

次に会場を本堂に移し、菅野猊下導師により、管内各山総代物故者追善法要が営まれ、菅野猊下の法話を聴聞した。

平成二十二年度 檀信徒協議会役員名簿

区	代表者氏名	菩提寺	役職
1	土屋武三郎	久成寺	副会長
2	前田　徳治	妙延寺	
3	遠藤　偵	實相寺	会長
4	佐野　文紀	妙善寺	
5	朝日　昭	養仙坊	
6	金子　征支	定林寺	
7	後藤　幸雄	吉祥寺	副会長
8	飯田良一郎	耀海寺	
9	鈴木　六朗	浄春寺	監査
10	青木　貞夫	蓮永寺	副会長
11	望月新太郎	宗傳寺	

東部＝1.2.3区　中部＝4.5.6.7区　西部＝8.9.10.11区

宗門運動
「立正安国・お題目結縁運動」平成34年3月31日まで

管区テーマ
『ひろめよう合掌の心』

いのちに合掌

あなたの毎日に、心やすらぐ人生の指針を。

人生の極意が示された、明るくあたたかい講話集。

『永遠の教え』に学ぶ――

法華経入門。

菅野日彰の
はじめての法華経
CD／カセット 全13巻

『法華経（妙法蓮華経）』というお経は、
約七万字のあらゆるところに、
私たちの苦しみ、悩み、悲しみから脱け出すための
道筋が用意されているのだということをご理解ください。
現代は心と体の悩みが充満している時代ですが、
そういう時だからこそ、
妙法――すなわち
「生まれ変わる」ことができる教えであり、
蓮華――すなわち
「泥沼の中でも清らかに咲く蓮の花のような心」で
生きることができる教えである、
『法華経』の一章一章に
耳を傾けていただきたいと思うのです。

私たちが過去世に何をしてきたかは、
今、自分の境地がどうあるかに関わってくることです。
それは今の私たちにはどうにもできないことですが、
この現世が未来世をつくっていくということ、
自分の将来は自分で築いているのだということを
忘れてはならないと思うのです。

現世安穏、後生善処
お釈迦さまのいう幸せとは、
他の多くの人々の幸せがあって
初めて自分の幸せがある、ということです。

お問合せは　海長寺
TEL 0545-64-6668 FAX 0545-64-6668

問合せ先　日蓮宗静岡県中部宗務所
〒416-0901 静岡県富士市岩本2184-2　TEL0545-64-6668
開所日：月・木・金　10：00～16：00

本山海長寺 菅野日彰 貫首 法話

此の岸と彼の岸

今年も春のお彼岸をお迎えすることが出来た。春のお彼岸は寒い冬の終わり、冬を無事に越せた悦びが大きい。その点、秋のお彼岸は暑さから逃れたという安堵感の方が強いように思う。

私は東京の谷中と山梨県の身延山を往復して月に二千キロも走るので、自ずと自然の移り変わりに目が届く。東京から山梨、山梨から東京、中央高速という一本の道路上にさまざまな変化がある。本稿執筆の二月は空が美しい。星屑までが手に取るように見える。祖山の私の部屋は東と南が窓、それも大きく開いているので自然の流れが手に取るように感じられる。特に樹木の営みに学ぶことが多い。

俳句の季語は二月のことを「山は眠る」というのだそうだけれども、私の見るところ「熟睡」はしていない。それは葉のない枝を見ていると、常に太陽、南の方を目指していることに気づくからだ。「木々は常に努力している」。このことを忘れて「冬眠」などと言っては、木に対して申し訳ないと思う。

この姿を見つつ、花を咲かせるための「不断の努力」を私たち人間は学ばなければいけないと思う。もっとも昨今の風潮に「不断の努力」がなじまないのはわかる。だが「楽して得する」ことだけを追求した結果が今日の日本の姿であるとしたら、無資源国、国土弱小国日本の進む道は一つしかない。一億不断の努力、である。何も金もうけだけをいうのではない。それぞれの年代のなすべき事をいいたいのである。

お彼岸の行事は日本佛教の創作である。印度にも中国にも無い。しかし、これほど佛教精神を表した佛教行事は少ない。それは佛教の根本理念である六波羅蜜（ろくはらみつ、六つの修行徳目）が説かれているからである。この六つを私流に今日的言葉で表現すると、

（一）布施（ボランティア）
（二）持戒（約束を守る）
（三）忍辱（目的に向かって耐える）
（四）精進（たゆまない努力）
（五）禅定（乱れない心）
（六）智慧（物事の本質を見定める）

のこと、この六つはバラバラに説かれるのではなく、根のところは一つである。つまり精進とは他の五つの実現、維持のために努力することとなるのである。

ところで「彼岸」とは、迷いの此の岸から悟りの彼の岸に到ることを言う、と一般的に説明されてきた。では「彼の岸」はどこにあるのであろうか。

日蓮聖人は『一生成佛抄』において「衆生の心けがるれば土もけがれ、心清ければ土も清しとて浄土と云い、穢土（えど＝娑婆のこと）と云うも土に二つの隔てなし。只我等が心の善悪によると見えたり。衆生と云うも穢土と云うも又々かくの如し」とご教化下っている。

浄土を彼岸・穢土を此岸と理解すれば、日蓮聖人のご教化は「お彼岸の心」をお述べになられたことと拝する。つまり「彼岸」は遠く十万億土の彼方でもなければ、単なる理想でもないのである。私たちが凡夫が営々として働くこの娑婆世界のわが心にこそ在る。此の岸と彼の岸は一体不二の状態と認識する。そして如何に生きるか。日常生活中「彼岸」をどれだけ実現出来るか。このことに真正面から向きあう。ここに彼岸の意義がある、と私は拝受する。

樹令四百年の身延山の枝垂れ桜が花をつけると人々が集まる。その美しさに目をそそぐが、真夏の西陽に堪え忍ぶ努力、酷寒の中で身を養う努力に思いをはせる人は少ない。かつての日本人が一番大切にしていた「努力」の心、春のお彼岸にちなみ再び蘇らせたく願ってやまない。

「心のともしび」より抜粋

宗門法要 「宗祖日蓮大聖人伊豆法難七五〇年報恩音楽大法要」

法華経によって人々を救おうと幕府に『立正安国論』を奏進された日蓮聖人が、伊豆に流罪となって七百五十年。宗門法要「宗祖日蓮大聖人伊豆法難七五〇年報恩音楽大法要」が五月十二日、内野日総日蓮宗管長猊下を大導師に営まれた。静岡県伊東市にある伊豆法難ゆかりの霊跡本山佛現寺（板垣日祐貫首）には、渡邊照敏宗務総長、本山貫首、宗会議員、宗務所長をはじめとする全国の僧侶檀信徒約千四百人が集い、宗祖のご苦難に思いをはせ報恩のお題目を捧げた。

お知らせ

一、公開講座

日　時　11月26日（金）午後2時より
場　所　清水テルサ（JR清水駅より徒歩5分）
身延山大学より講師を迎え公開講座（入場無料）を行います。
ご参加ください。

二、歳末助け合い募金唱題行脚

日　時　12月9日（木）午後を予定
場　所　藤枝市内
青年五明会が、歳末助け合い募金行脚を行います。
ご協力をお願い致します。